

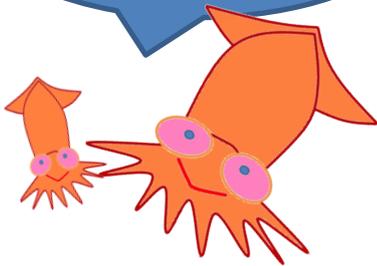
# いか一本釣り漁船関係事故の再発防止に向けて

運輸安全委員会事務局地方事務所による分析（函館事務所）

令和4（2022）年8月発行

## 1. はじめに

いか一本釣り漁船関係事故の発生状況



近年、北海道のいか漁は、水温の上昇など、様々な要因により、記録的な不漁に見舞われています。漁獲量が減っている中、いか一本釣り漁船が関係する事故等数も減少傾向が見られるものの、依然として一定数の事故が発生している状況です。

運輸安全委員会が発足した平成20年（2008年）から、令和3年（2021年）までの14年間に当委員会の函館事務所が調査した事故等の調査報告書は、837件で、このうち、いか一本釣り漁船が関係する事故等は、65件でした。

また、いか一本釣り漁船が関係する事故等65件のうち、衝突事故が27件（防波堤等への単独衝突7件を含む）、火災事故が11件と両事故を合わせた件数が半数以上を占めています。

今回、函館事務所では、函館を代表する漁業である、いか一本釣り漁船が関係する事故の再発防止に向けて、特に発生件数の多い、衝突事故と火災事故の事例について、また、様々な事故に繋がるおそれのある居眠りを要因とした事故について、事故の要因とその背景要因及び再発防止策をご紹介します。

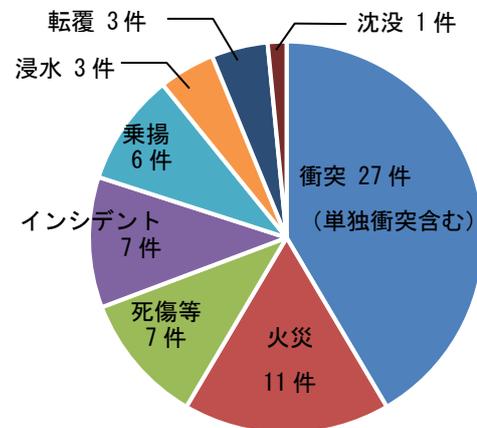


図1 いか一本釣り漁船の事故等種別



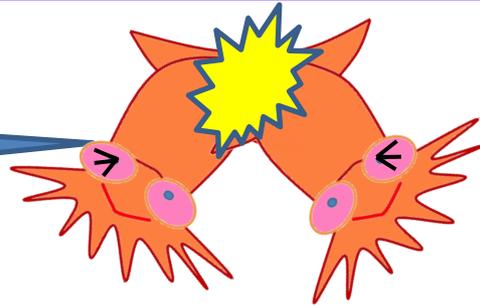
## 運輸安全委員会事務局函館事務所



函館事務所は、北海道全域及び津軽海峡で発生した船舶事故等について、原因の究明や被害の軽減のための調査を行っています。

## 2. 事件事例① いか一本釣り漁船関係の衝突事故

航行中のいか一本釣り漁船と  
錨泊中の船舶との衝突事例



(事故の概要)

本事故は、祝津漁港<sup>しゅくつ</sup>東方沖を同漁港北方沖の漁場へ向けて北進中の A 船(いか一本釣り漁船)と、祝津漁港東方沖で船首を東方に向けて錨泊し、練習中のヨット群を監視していた B 船(救助艇)が衝突したものの。

北進中の A 船は、船首右方(B船の東方)に認めたレガッタブイ(ヨット競技に使用するブイ)に接近しすぎると、ブイとおもりを結ぶ索にプロペラが絡んでしまうので、接近しすぎないようにブイを注視して航行を続け、錨泊中の B 船は、接近する A 船を視認したものの、そのうち B 船を避けてくれるだろうと思って錨泊を続けていた。

(事故の背景要因)

A 船の操舵室右舷側(操縦場所)からの見通し状況は、視界を遮るもののない船首右方に対し、集魚灯等により正船首方が見えづらい状況だった。また、A 船の船長は、多数のヨットをレーダーでは確認しきれないと思い、目視のみで見張りを行っていた。

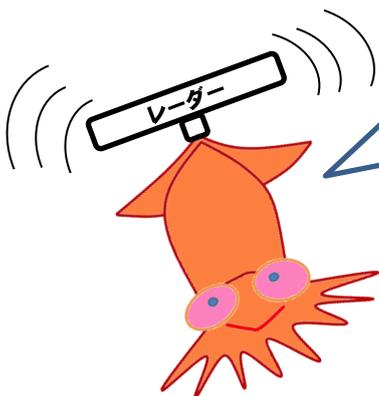
(事故の要因)



A 船の船長は、集魚灯等により正船首方が見えづらい状況下、船首右方のブイを注視して航行を続けていた。B 船の船長は、接近する A 船が B 船を避けてくれると思って錨泊を続けていた。

(再発防止策)

- 航行中は、一方向だけを注視せず、レーダーを併用して、常に周囲の見張りを行いましょう。
- 錨泊中に接近する他船を認めた場合は、他船が避けてくれると思い込まずに、必要に応じて衝突を避ける措置をとらましよう。



いか一本釣り漁船は、暴露甲板上に集魚灯や自動いか釣り機等の漁労機器が多数設置され、操舵室から十分に見えない範囲(死角)が生じることが多いので、**目視とレーダーを併用して、しっかりと周囲の見張りを行いましょう！**

**特に、集魚灯等により正船首方が見えづらい漁船はレーダーを十分活用しましよう！**

## 2. 事件事例② いか一本釣り漁船関係の火災事故

操業中に機関室から火災が発生した事例



(事故の概要)

本事故は、夜間、函館市えさん恵山岬北東方沖において、いか一本釣り漁の操業中、機関室から出火したものの。

船長が、機関室入口隙間から内部の様子を見たときには、機関室内は炎が見え、煙が充満している状態であり、乗組員が僚船に無線で救助を求め、乗組員全員が無事救助された。

(事故の背景要因)

- 本船は、約2年前に中古船として購入され、機関室内の電気配線は整備が行われないうまま使用されていた。
- 機関室は、13時の出港から17時の事故発生まで、室内の点検が行われていなかった。



(事故の要因)

機関室の電気配線の被覆が、長期間の使用で経年劣化したことにより、絶縁抵抗が低下するなどして発火し、付近の可燃物に延焼した可能性がある。(本船は、本事故で沈没しているため、事故調査報告書内では可能性があるとして記載されています。)

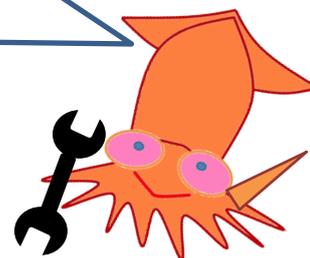
(再発防止策)

- 長期間使用されている漁船は、特に火災防止の観点から、定期的に機関室の見回りを行いましょよう。
- 早期に火災等の異常を発見するため、機関室に火災検知器又はモニターカメラを設置するのがよいでしょう。

FRP製の小型いか一本釣り漁船は、一旦火災になるとFRPが燃焼する際に可燃性ガスが生じるので、鋼船漁船に比べて、短時間で延焼します。

**機関区域及び居住区域には、法令に従って、小型船舶用消火器を備え付けましょう！また、火災検知器等の消防設備を設置するのがよいでしょう。**

**集魚灯用安定器、変圧器等は、使用年数を考慮して、適宜交換する等の措置をとりましょう！**



## 2. 事件事例③ いか一本釣り漁船関係の防波堤衝突事故

当直者が居眠りに陥り、  
防波堤に衝突した事例



(事故の概要)

本事故は、夜間、十勝港に向けて自動操舵で南西進中、単独で当直中の船長が居眠りに陥り、十勝港の外北防波堤に衝突したものの。

(事故の背景要因)

- ・単独で当直中の船長は、十勝港への帰航途中から眠気を感じていた。
- ・船長は、十勝港まで4海里の距離に達したとき、間もなく入港できると安心した。
- ・椅子に腰掛け壁に寄りかかった姿勢で、自動操舵により操船していた。



(事故の要因)

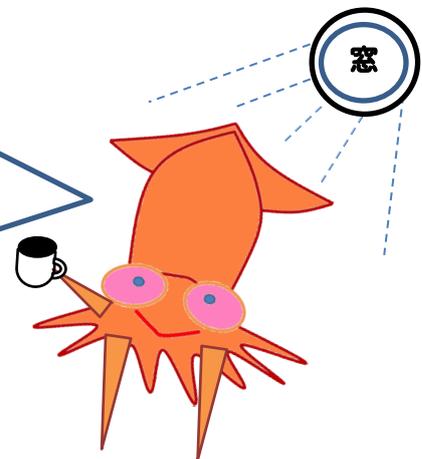
船長は、操業による疲労などで眠気を感じており、間もなく入港できることで緊張感が緩んだ状態で、椅子に腰掛け、壁に寄りかかった姿勢のまま、操船を続けたことから居眠りに陥った。

(再発防止策)

- ・船橋当直中は、楽な姿勢のまま操船を続けず、手動操舵で操船したり、外気に当たる等して居眠り防止を図りましょう。

**眠気を感じたら、居眠り防止措置をとろう！**

- ・立った姿勢で当直する。
- ・窓を開けて外気を浴びる。
- ・コーヒーを飲んだり、ガムをかんだりする。
- ・どうしても眠気が治まらない場合は、他の乗組員に航海当直の支援を頼みましょう。



### 3. まとめ



いか一本釣り漁船関係事故について、  
事故防止の**三本柱**をご紹介します！



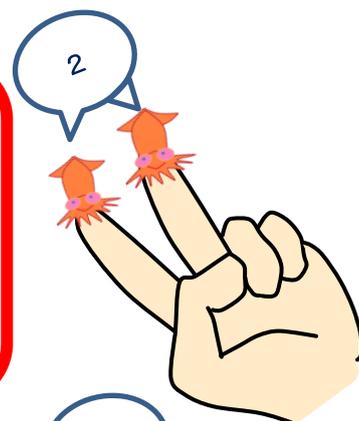
#### 1 レーダーを活用して、常時適切な見張りを行おう！

操舵室からの見通し及び夜間操業が多いことを考慮し、目視のほか、レーダーを活用した見張りを行う。



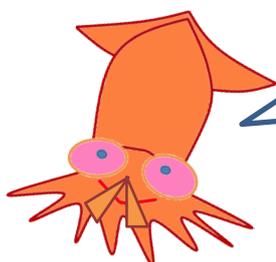
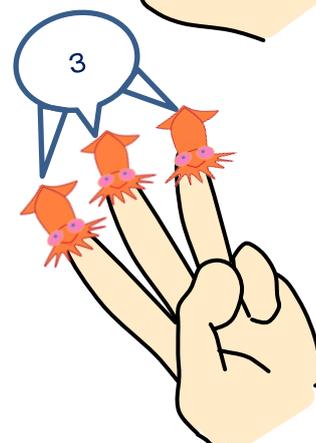
#### 2 定期的に機関室を点検し、火災検知器及び拡散型消火器を設置しよう！

機関室を定期的に点検し、異常が生じた際に、直に対処できるように火災検知器及び拡散型消火器を設置する。



#### 3 眠気を感じたら居眠り防止措置をとろう！

立った姿勢で当直する。窓を開けて外気を浴びる。コーヒーを飲んだり、ガムをかんだりする。  
他の乗組員に航海当直の支援を頼む。



漁業者の皆様の安全操業を、また、  
豊漁となりますようお祈りいたします。

令和4年8月発行

